

備中高松城址（榛葉竹庭）

堅城孤立萬波中 漫使懸軍誇武功

昔事已随流水去 殘營寂寞草頭風

堅城 孤立す 萬波の 中

漫に 懸軍をして 武功を 誇らしむ

昔事 已に 流水に 随つて 去り

殘營 寂寞 草頭の 風

解説 高松城は天正の初年、石川久貳が宇喜多直家に備えて築いたものであり、沼の中に本丸と二の丸が並び、これを囲んで三の丸を配した難攻不落の平城であった。天正十年、羽柴秀吉は、城主・清水宗治の守るこの城を攻囲し、城南を流れる足守川を塞き止めて城を水没せしめた。

語釈 ※堅城Ⅱ守りの強固な城。 ※萬波Ⅱ次から次へと絶え間なく押し寄せてくる波。 ※萬Ⅱ一面に満ちて覆うさま。 ※懸軍Ⅱ遠征軍。

※殘營Ⅱのこりすたれた砦。 ※寂寞Ⅱさびしいさま。 ※草頭Ⅱ草の上。

通釈 難攻不落を誇る高松城も、千波萬波の中に孤立しては如何ともなし難く、遂に秀吉の遠征軍に武功を誇らせる結果となつてしまった。既に四百年の歳月が流水と共に流れ去った城址は物寂しく、唯、風が草上を吹き渡っているのみである。